

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	観光型ホテル（営業担当）	・2009年はイベントや大会等が予定されていることから、やや良くなる。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・初売りからのクリアランスセールも客の消費を喚起する材料にならないため、今後も厳しい。
		百貨店（営業担当）	・総売上に占めるバーゲン品のシェアが拡大しており、来客数は減少傾向になっている。また、店外特選品等のホテル催事でも会場受注が前年割れとなっている。お歳暮ギフトも店頭受注、持ち帰り、外商受注共に前年割れとなっている。一方、インターネットや通販等の非来店受注は好調である。
		百貨店（営業担当）	・1月はクリアランスセールを控えており、セール品を中心に動きがあると予想されるが、その後の反動減もあり、本格的な消費回復は見込めそうにない。
		スーパー（店長）	・景気悪化により顧客ニーズは価格一辺倒かというところでもない。質と価格を重点思考している当社には、極端な落ち込みは無い。
		スーパー（店長）	・チラシによる集客ではなく、毎日の客を大切に集客を実践しており、生鮮食料品を中心に火曜日のポイントアップセールを行った結果、火曜日は前年比110%程度で推移している。今後もポイントアップセール等の販売促進を実施し、集客力の向上を図れば、売上は今以上になる。
		スーパー（経理担当）	・社会情勢が不安定であるなか、消費者の内食傾向はある程度続き、来客数は維持できるが、客単価は減少傾向に向かう。
		衣料品専門店	・今の状態は過去にないどん底の状態であり、来客数、売上共に減少傾向にある。今後も先が見えず、悪い状態が続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・販売台数は、これ以上落ち込むことはないため、このまま低い水準で販売台数は推移していく。
		乗用車販売店（管理担当）	・春は年間の最大需要期なので期待しているが、今の状況を見ると、前年と比べて厳しくなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は、ガソリンを中心に下がり続けている。レンタカーなどを利用する人が増加しており、一般消費者のガソリン需要は多少高まっている。しかし製造業の在庫調整が落ち着くまで、製造業の下請けをしている中小企業は厳しく、ガソリン需要も低い。
		一般レストラン（経営者）	・2月になるとプロ野球等のキャンプシーズンに入り、観光客も増えるため、少しは売上も上がる。3月は歓送迎会等もあり、ある程度の集客は見込めるが、その他の利用客の減少傾向は止まらず、総合的にみると変わらない。
		旅行代理店（業務担当）	・年度末にかけ、地元企業の倒産等が影響し、法人客の旅行の減少が懸念される。
		競輪場（職員）	・入場者数の前年比での減少幅が縮小しており、下げ止まり感がある。
	美容室（店長）	・来客数は少し伸びているが、2、3か月先はどうなるか見通しが立たない。	
	設計事務所（所長）	・手持ちの仕事が3か月先くらいまではあり、今と変わらない。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・自動車の大手企業がかなり低迷しており、地元の失業率が高くなっている。客の購買意欲は低下し、販売量が伸び悩んでいる。
		商店街（代表者）	・消費税等の引上げの噂もあり、客の動きが悪い。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・小売店で商品の値下げをしても、消費者は大型店に行く傾向にある。
百貨店（営業推進担当）		・経済に対する不安感が解消されなければ、消費の低迷は更に進み、特に百貨店で取り扱っているぜいたく品への需要はますます低迷する。	
百貨店（業務担当）		・消費マインドが冷え込んでおり、短期間では解決しない。所得が低下しても、貯蓄に回したいという客が多い。	
百貨店（企画）		・世界金融恐慌の影響により、月を追うごとに売上の前年とのかい離が大きくなっており、今後の消費マインドはますます低下する。個人消費を刺激する政策展開がなければ、当分の間、個人消費は上向きにならない。	
スーパー（店長）		・1品の買上単価が落ちている。買上点数も減少傾向にあり、今後もこの状況は続く。	

スーパー（店長）	・地場産業での解雇や長期休業が相次いでおり、個人消費はますます悪くなる。
スーパー（企画担当）	・競合店の影響に加え、景気後退の影響で食品の買い控え傾向が懸念され、現状よりも厳しくなる。
コンビニ（エリア担当）	・新たな商品や販促を実施しないと、客の購買意欲は上がらない。3か月後も景気は悪い。
コンビニ（販売促進担当）	・菓子パンの売れる価格帯が100～120円となっており、130～140円の価格帯の菓子パンはあまり売れない。食パンに関しても220円～230円を200円に落として販売しているが、動きは鈍く、今後も客の買い控え傾向は続く。
コンビニ（エリア担当・店長）	・事業所立地の影響もあるが、近隣の事務所が撤退する等、空き事務所が増えており、昼間の客や通勤客が減っている。これ以上事務所は増えず、今後も厳しい。タスポの影響も4月で1年を迎えるので、これ以上は良くはならない。
家電量販店（店員）	・販売業は製造業の低迷に比べると景気後退の影響は小さいが、それでも客の買い控え等が続いており、厳しい。客の様子や販売動向から景気が良くなる要素が見いだせない。
家電量販店（店員）	・販売量が例年に比べて悪く、これから更に悪くなる。回復の兆しが全く見えない。
住関連専門店（経営者）	・マスコミによる不景気や雇用不安等の報道により、消費の低迷が続いている。年が明けて、ますます厳しい状況になる。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・コーヒーは年末にかけての需要が高く、1月に入ると例年、需要が極端に落ちる。また寒さも加わり、客の出足も多少鈍る。加えて、景気後退に伴う購買意欲の低下により、購入単価も減少傾向にあり、厳しい。
スナック（経営者）	・客の会話や雰囲気活気が感じられない。プライベートで細々と飲みに来る客はいるが、仕事関係での利用客が少ない。
都市型ホテル（副支配人）	・連日のマスコミによる解雇等の報道により、客足が鈍くなっており、今後も厳しい。
旅行代理店（従業員）	・月を追うごとに予約数が減っており、特に2月以降の団体予約が悪い。
タクシー運転手	・県外客に支えられている部分が多い地域であるが、県外客が減少傾向にあり、タクシーの乗客も少ない。
タクシー運転手	・年が明けたら会社の人員整理、部署整理があると言う客の話があり、今後も厳しくなる。
通信会社（企画担当）	・販売代理店の合理化策に起因して、1月以降の当社の販売量は減る見込みである。
通信会社（業務担当）	・今後も新商品の数機種発売と旧商品の値下げのプロモーションは継続されるが、依然ユーザーの携帯電話購入代金が高いとのイメージが強く、販売数は増加に転じない。
テーマパーク（職員）	・プロ野球やJリーグキャンプのある2月は、例年並みの動きが予想されるが、それ以外の時期は例年に及ばない。1～3月はやや悪いと予想される。
ゴルフ場（支配人）	・企業の動向、雇用不安などマイナス情報が増えており、客の様子をみても、個人消費はますます落ち込んで行く。
競馬場（職員）	・入場者数は減少傾向にあるが、今後の具体的な業務改善策が打ち出されておらず、厳しい。
住宅販売会社（従業員）	・不安定な社会情勢を背景に、住宅購入意欲は更に減退する。
悪くなる	
商店街（代表者）	・景気が悪いという報道により、消費者の購買意欲は低下する一方である。2、3か月先の需要が落ちる時期に、企業倒産や雇用不安、世界の経済不安等のおおりの受け、景気は更に悪化する。
商店街（代表者）	・雇用状態が最悪の状態、個人消費はますます落ち込んでいく。今の状況よりも財布のひもは更に固くなり、売上、来客数共に減っていく。
一般小売店〔青果〕（店長）	・マスコミによる大手企業の解雇等の報道が、客の購買意欲の妨げになっている。地元企業の倒産も続いており、かなり厳しい状況になる。
百貨店（営業担当）	・大型建設会社の倒産、その他公共事業発注の減少も含め、建築業界が大きく冷え込んでいる。その影響は他産業にも影響しており、百貨店でも客の消費マインドの低下により、厳しい状態が続く。
百貨店（販売促進担当）	・取引先の日本市場からの撤退やブランドの廃止、不採算店舗の廃止など年内から動きが出た。来年以降もこのような動きが活発化する。それに伴い、個人消費が一気に落ち込むのは明確である。

	百貨店（売場担当）	・ 2、3月期の企業決算発表により、不景気感が更に加速する。現時点で、派遣労働者の問題等により、消費者はかなりシビアになっている。食品についてはさほど落ち込みはないが、衣料品を中心に悪い状況が続く。地方はより厳しい。	
	スーパー（店長）	・ 春の社会行事や学校行事等の利用が高まるが、節約志向の高い消費者は同じ商品であれば安い店舗に出向く傾向にあり、客単価は前年より大きく落ちる。	
	スーパー（総務担当）	・ 今後も価格引き下げの戦略のみに頼る傾向が強まり、競争が更に激化する。不景気感がこのまま続けば、客の購買意欲も高まらない。	
	スーパー（総務担当）	・ 各大手企業も赤字決算であり、そのしわ寄せが中小企業にくるため、可処分所得が減り、消費は低迷する。また、雇用不安が浸透し、客の消費購買意欲がますます低下する。	
	衣料品専門店（店長）	・ 客の年齢層が高い当店では、偶数月は年金が支給されるため売れるが、客の懐は凍り付いており、購買意欲が感じられない。	
	衣料品専門店（店長）	・ 余計な買物はしないという客の様子が伺える。世界的な不況の影響が末端まで響いており、客の購買意欲はますます落ち込む。	
	乗用車販売店（従業員）	・ 部品の売上高が減っており、今後も厳しい。	
	自動車備品販売店（従業員）	・ 国内製造業を中心に減産、倒産が増え、自動車販売は今後も厳しくなる。	
	高級レストラン（経営者）	・ 予約は少しずつ入ってはいるが、先行きは全く分からない。企業の接待での利用は減少傾向にある。	
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・ マスコミの不景気報道により、客は財布を閉じたままで、動きが鈍い。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・ 例年利用がある宴席の問い合わせが少ない。現在の経済状況から、この先どうなるのか全く読めない。	
	都市型ホテル（総支配人）	・ 地域的に製造産業の企業が多いため、今後も悪化状況は続き、客は減少する。	
	タクシー運転手	・ 人の流れが悪く、受注単価が下がっている。	
	通信会社（管理担当）	・ 更に資金調達が難しくなる。	
	通信会社（総務担当）	・ 新規加入者数が前年比マイナスとなっており、目標を達成するのが困難な状況となっている。	
	理容室（経営者）	・ 最も需要のある12月が前年比20%程度低下しており、例年1～2月は年間で最悪の月であるため、直近の景気回復は見込めない。	
	音楽教室	・ 今は自動車業界が打撃を受けているが、今後は他のメーカー、流通に飛び火し、景気は悪くなる。社会人の客も多く、客の様子も芳しくない。	
企業 動向 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	-	
	変わらない	農林水産業（経営者）	・ 1、2月の落ち込みは例年やむを得ないが、3月は物が動く時期で少しは期待できる。食品の中でも我々の商品は高級品ではなく、日用品であるため、不況の影響はあまりない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ 当社の商品は必需品ではないため、受注量が減少傾向にある。新春展示会をするが、あまり期待できない。新商品を作っても、良い方向性を見いだせない。
		通信業（職員）	・ 受注量を確保できており、年度末までこの状況を継続できる見込みである。
		金融業	・ 緊急経済対策資金により、企業の当面の資金繰り難は一服すると考える。悪い材料は出尽くしており、景気は低位で推移する。ただし、円高の進行や株価の下落などが加わると、心理的に消費は更に落ち込む。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・ 消費が低迷しており、プロイラー関係でも同様の傾向が出てきた。特に円高による輸入物の増加等により、国産の価格が更に厳しくなる。
		食料品製造業（経営者）	・ 円高や原油価格の急落にもかかわらず、原材料の値上げでコストが上昇しており、これらが値下がりする兆候が今のところない。また、納入先の客単価や来客数が減少傾向にあり、今後も厳しい状況となる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ 自動車の生産が安定しない限り、悪い状態が続く。今のところ生産が全く先が見通せないため、先行きが見えず模索している。
		輸送業（総務担当）	・ 輸出用関連商品の生産調整はますます拡大していく。それに伴う部品等の輸入も減少していき、しばらく荷動きの低下は続く。

	通信業	・業種的にまだ大きな影響を受けていないが、これから本格的に影響が出てくる。
	金融業（営業担当）	・自動車産業の業績低迷により、下請けの中小企業は赤字決算を余儀なくされている。今後もこの傾向は続く予測する経営者は多い。
	金融業（調査担当）	・取引先の様子をみると、自動車部品は数か月後、更に受注量が減少する見込みである。
	不動産業（従業員）	・賃貸オフィスビルの空室率の増加が続いており、今後も企業の支店撤退、縮小等により、この傾向が続く。
	その他サービス業〔物 品リリース〕（従業員）	・12月に入り倒産及び延滞等、不良債権が大幅に増加している。取引先の設備投資の延期、中止が相次いでいる状況から、当面はこの状態が続く。
悪くなる	農林水産業（営業）	・年末年始の需要期を終え、販売量、販売価格共に落ちていく。
	繊維工業（営業担当）	・リストラが増え続ければ、衣料品を購入する人は減少し、それに伴い受注も減少する。
	家具製造業（従業員）	・取引先の設計事務所の話では、設計依頼物件が激減していると言う話がある。今後半年から1年先の受注は無く、3か月先どころか半年先、1年先も厳しい。
	鉄鋼業（経営者）	・新規民間設備投資の減少は、周辺のインフラ整備にも影響し、物流倉庫、商業施設、共同住宅等の新規建築需要の減少にもつながる。新たな需要が創設されない限り、建築需要の落ち込みには歯止めはかからない。
	金属製品製造業（企画 担当）	・取引先の倒産が増加し、受注案件の納期延長等、状況はますます悪化する。
	一般機械器具製造業 （経営者）	・引き合い物件がほとんど無く、今後も厳しい。
	一般機械器具製造業 （経営者）	・自動車産業の低迷により、景気悪化の底が見えない。3か月先は分からないが、少なくとも1～2か月先は、現状と同じく仕事が何も無い。
	電気機械器具製造業 （経営者）	・社会的不況のなかで、特に電気産業は大きく落ち込んでおり、先行きの見通しは全く立っていない。これからも落ち込み、3月を底に推移する。
	輸送用機械器具製造業 （営業担当）	・販売不振のため在庫が多く、生産量が減少している。メーカーを始め、下請けの人員整理も始まっている。
	建設業（従業員）	・円高により、輸出産業の業績が悪化し、地域の景気はますます低迷する。先行きの景気予測が不透明であるため、消費意欲は低下し、厳しい状況が続く。また、雇用問題も企業の業績の影響を受け、解雇される人が増える。
	輸送業（従業員）	・荷量が前年比85%まで落ち込んでおり、人、営業車が過剰になっている。原油価格が下落し、燃料代は減少しているが、利益は大幅に悪化しており、今後も厳しい。
	通信業（経理担当）	・上場企業の経営状況の悪化は、今後、我々中小企業にも徐々に大きく影響してくる。
	金融業（営業職涉外 係）	・日本を始め各国が金利の引下げや景気対策に乗り出しているが、即効性のあるものはない。国内の銀行がかなりのダメージを受けており、年度末にかけて資金調達のできない企業が次々と倒産する。
	金融業（得意先担当）	・銀行を始めとする金融機関や保証協会が土日を返上して企業の資金繰り対策に寄与してきた。今月若しくは来月の資金繰りについては一定のめどがついたとは言え、今後の景気の動向によってはかなり厳しくなる。
	広告代理店（従業員）	・原油価格が下落し、ガソリン代も安くなった。その上、円高が進み、各小売店は商品の値下げで顧客ニーズにこたえた。しかし、広告の折込枚数は前年比90%となり、景気の底冷えは思った以上に深刻な状態である。回復の兆しもまだ見えてこない状態である。
	広告代理店（従業員）	・前期、今期とマイナス成長できている。年明けでその傾向が変わる保証はなく、更に悪くなる。
	経営コンサルタント	・これからますます業務は縮小する。
	経営コンサルタント	・消費者の財布のひもは更に固くなる。飲食店は売上が前年比2～3割減となっている。
	その他サービス業	・住宅等の販売不振、公共事業による道路等の土木建設業の発注量の減少が、今後も続く。土木・建築業界の景気は更に悪化し、企業の倒産等が発生する。
	雇用 関連	良くなる やや良くなる

変わらない	学校 [ 大学 ] ( 就職担当者 )	・大学3年生向けの求人活動が活発に行われる時期であるが、採用方針が未定という企業も多く、流動的である。就職環境が好転する要素が見当たらない。
やや悪くなる	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・少し前までであった派遣社員の募集が完全になくなり、当面は回復しないという話を企業担当者から聞く。
	職業安定所 ( 職員 )	・事業主都合による離職者を中心に新規求職者数は今後も増加すると予想されるが、新規求人数は低下傾向が続き、現在0.7倍台となっている有効求人倍率は12月以降0.6倍台で推移すると危惧される。
悪くなる	学校 [ 専門学校 ] ( 就職担当 )	・企業担当者の話、求人状況等によると、雇用状況はますます悪くなる。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・失業者が増えており、回復の兆しが見られない。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・企業からの求人依頼が減っている。また春以降も厳しくなると言われている。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・大型倒産が避けられず、来春は雇用情勢は過去最悪になることが必須である。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・年度末にかけて、景気が一層悪くなり、企業の人員計画の見直しが進み、事務系派遣社員の終了が増える。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	・例年、年度末に向けて求人数は増えるが、景気不安に対して雇用調整弁を固く絞る可能性が高い。特に求人誌はパート・アルバイト求人が主力となっているため、厳しくなる。
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・円高の影響で製造業、特に自動車産業は更に縮小の方向に進み、景気は更に悪くなる。
	職業安定所 ( 職員 )	・製造業を中心とした生産活動において、回復の状況が見られず、今後とも引き続き受注減が続き、雇用調整が進む。
	職業安定所 ( 職員 )	・自動車関連部品製造事業所を中心に派遣社員や期間社員の雇止め等の事案が発生しているが、今月に入ってこの動きが加速している。翌月以降も契約期間不更新を予定している事業所も少なくない。また、下請けにも影響が出ており、今以上に悪くなる。
	職業安定所 ( 職員 )	・11月の有効求人倍率は0.66倍と前月より0.06ポイント低下している。派遣労働者など非正規労働者の離職者が増加するとともに、事業所の倒産などによる従業員の解雇の相談も寄せられており、雇用環境の悪化がどの程度進んでいくか予測できない状況である。
	職業安定所 ( 職員 )	・求人数が減少傾向にあるにもかかわらず、求職者数が増加傾向に転じており、厳しい。
民間職業紹介機関 ( 社員 )	・製造業の派遣切りが報道されているが、3月の決算を控え事務派遣でも契約期間満了前に契約終了の動きが発生している。自動車関連、半導体関連、家電関連は3月末前後に大きな動きが予測される。一方で、販売、営業関係の販売促進業務は年末年始商戦を向かえ、求人が比較的多いが、求職者が派遣を敬遠しているのか頭打ち状態である。	
民間職業紹介機関 ( 支店長 )	・自動車が売れず、鉄鋼や化学等の素材製品、半導体等の減産に伴い、更なる景気の悪化が懸念され、雇用問題は拡大する。	